

用途の検討

「宿泊税使途の明確化」

宿泊税を徴収するにあたっては、その使途の明確化や費用対効果の検証が重要である。また、データに基づきながらターゲットを想定し、どのように効果を出していくのかを含め、導入の方向性、効果を明確にし、宿泊者、宿泊事業者または市民へ周知していくことが大事である。

事業規模 約5,000万円

地域の魅力「南房総らしさ」の磨き上げ

花畑の再生（約2,000万円）

近年急激に減少している南房総の「お花畑」を現在の観光ニーズに併せて再興させるなど自然環境の維持・整備

南房総の観光の強力なウリ（目玉）の創出

フォトスポットの創出（約500万円）

その地域にしかなく、ニュースソースになるような、そのもの自体が観光目的となるものを創出

時代のニーズに合った情報発信

情報発信（約500万円）

インフルエンサーを活用し、情報発信の初動の加速とSNS上での拡散を狙う

教育旅行・スポーツ大会の誘致

教育旅行・スポーツ大会の誘致（約500万円）

教育旅行への補助（バス、体験等）、スポーツ大会への補助（大会運営支援、景品提供等）、体育館のエアコン設置

「宿泊税使途の明確化」

観光地域づくりコーディネーターの人材確保

コーディネーター人件費（約800万円）

花畑再生やフォトスポット作成等、持続的な観光地域づくりを推進できる人材の確保

宿泊施設の磨き上げ改修補助

宿泊施設の改修費（約500万円）

キャッシュレス化やユニバーサルツーリズムのための改修補助

徴税経費

特別徴収義務者への報酬（約200万円）

宿泊税の徴収事務を担う宿泊事業者に対して報奨金を交付

- ◎予算を分散させない。（選択と集中を意識）
- ◎宿泊事業者が宿泊客に説明しやすい、分かりやすい使途であること。
- ◎1年で実施できない内容は、長期計画的な実施も検討する。